えにし結びたい・む

◆「えにし」の人って？◆

福祉と医療・現場と政策のあいだに横たわる、深くて広い河に橋をかけ、「えにし」を結んでいただきたいという願いから始まった「つどい」です。ことしは、行政・政治に携わっている方、医療関係の方、福祉関係の方、ジャーナリズム・研究者、当事者の方々が、ほぼ同数参加してくださっていました。

「えにしむすびたい・む」と「続・えにしむすびたい・む」で、知らないどうしで「新たなえにし」を結んでくださいね。お医者さん、ナースが多数おられますので、何が起きても大丈夫です。

新たなえにしを結ぶ会は、入会金なし、会費なし。義務もありません。資格は、この日本の医療や福祉を少しでもよくしようという志をもっておられることだけです o(^^o) (o^^o) (o^^)o

通称「えにしメール」を、北は稚内、南は、甑（こしき）島、加計呂麻（かけろま）島の志高きみなさまにお送りしています。2001 年には、30 通ほどだったのですが、いまは 3000 通を超えました。このくらいの数になると、同姓同名が４組ほど。そのうち白石正明さん×２人、樋口恵子さんと鎌田実さん１人づつが、今回、参加なさっています(^_-)-☆

「えにしメール」は、国境を越え、米、英、仏、独、伊、北欧４国、タイ、韓国、そして日本の 12 カ国。日本語が堪能な、韓国、スウェーデン、アメリカの方も愛読してくださっています。きょうは、そのおひとり、ジョン・キャンベルさんがフロアで聴いておられます。

◆この「つどい」が縁で生まれた数々の本、そのなかで、きょう刊行された２冊は。。。◆

2003年の二次会「障害福祉と介護保険の縁を考え、深める会」での出会いから生まれたのが、「ゆびさきの宇宙～盲ろうを生きて」です。この本は、視覚障害がある方には、テキストデータが提供されます。えにしの方たちで執筆した同じ岩波書店の『ケア～その思想と実践』も同様です。これが、ごくあたりまえの社会になるとよいのですが。

昨年秋、東大の教授になられた福島さん、「26 日、イギリスに発たつのだけれど出席」というお返事が届いています。

『ニルスの国の高齢者ケア～エーデル改革から１５年後のスウェーデン』は、和光の部長をしながら、認知症の母上を 11 年間在宅介護した藤原瑠美さんが、退職後、英語を学び直し、スウェーデンに５回、のべ２３０日滞在してまとめもの。出版実現のきっかけは、えにしの会だったのだそうです。昨年の三次会で会った中野一司さんも本の結び部分に登場します。最も頼りにした文献の主、元スウェーデン大使館一等書記官の伊澤知法さんとは、この会で感激の対面になります。

◆新しい「えにし」・なつかしい「えにし」の結び直し・天国のえにし◆

ここでの再会が「えにしの結び直し」につながることもあります。

2006 年、手遅れの癌を抱えて参加した参院議員の山本孝史さんは、ここで再会した人びとに励まされて、その９日後、国会で自身の癌を告白しました。「それが、がん対策基本法の成立につながりました」と、2007 年のトークライブでしみじみ話しておられました。

第２部の埴岡健一さんの「国の予算は国でなく、国民みんなで作る」は、この法律の魂を受け継いだものです。山本さんは、『救える「いのち」のために～日本のがん医療への提言』（朝日新聞社）を残して、この年の暮れ、58 歳で旅立たれました。遺言となったこの本づくりには「えにし」の方々が奔走しました。

『ニルスの国の高齢者ケア』と出版社の縁をむすんだのは、『クリッパンの老人たち』（ドメス出版）をはじめ数々の仕事を残して 2002 年、52 歳で世を去った「えにし」の建築家・外山義さんでした。